

# おもな感染症一覧表

もしかかったら・・・  
学校をおやすみしてください

下の一覧表にあげた病気は学校において予防すべき感染症といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に届けて、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。これは法律で定められた『出席停止』で、欠席あつかいにはなりません。



## 《第1種》

病名	出席停止期間
エボラ出血熱 南米出血熱 鳥インフルエンザ(H5N1型)	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト マールブルグ病 重症急性呼吸器症候群(SARS) ラッサ熱 急性灰白髄炎 痘そう ジフテリア 治癒するまで

## 《第2種》 飛沫感染のため、学校において流行する可能性が高い感染症

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで	高度の発熱・頭痛・筋肉痛・全身倦怠感・咽頭痛等の呼吸器症状	飛沫 空気感染	1～3日	発病後3程度までは感染性が強い	うがい・手洗い・換気 保湿・予防接種	12～3月
百日咳	特有の咳が消失するまで 又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	のどの発赤・特有な痙咳	飛沫 接触	通常7日 10以内	発病後28日	予防接種	4～10月
麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	高熱 コプリック斑 発疹	飛沫	9～11日	発病2日前～発疹出現後5日まで	予防接種	2～6月
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下線又は舌下線膨張が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで	耳下腺の腫脹・発熱	飛沫	16～18日	発病7日前～発病後9日間	予防接種	冬～春
風疹 (3日はしか)	発疹が消失するまで	バラ紅色の発疹・発熱・リンパ節の腫脹	飛沫	14～21日	発疹の出る7日前～後7日間	予防接種	3～7月
水痘 (みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	紅斑→丘疹→水疱→膿疱→痂皮の順に進行する発疹	飛沫 直接	10～21日	発疹出現2日前～水疱痂皮化までの10日程度	ワクチン	1～7月・ 11～12月
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状消退後2日経過するまで	発熱 咽頭炎 結膜炎	飛沫 結膜接触	5～7日	発病後2～3週間	水泳後、流水で洗う。 水泳禁止	7～10月
結核	医師によって感染の恐れがないと認められるまで	肺に病変を起こすことのできる多量全身性感染症	飛沫	1～2ヶ月		水泳禁止 BCG接種・ X線による早期発見	なし

## 《第3種》

病名	出席停止期間	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	予防方法	好発季節
腸管出血性大腸菌感染症		激しい腹痛 下痢 血便	経口	4～8日	多くは数日以内	トイレの消毒・手洗い	春～夏 5月頃
コレラ		下痢 嘔吐 低体温 急速な脱水症状 皮膚の乾燥としわ	経口	数時間～3日	健康保菌者は長期にわたり便中に排便する		
細菌性赤痢		発熱 腹痛 下痢 嘔吐 吐き気 寒気	経口	1～5日	発病後1週間前後	手洗い・流行地で生水・生食品等を口にしない	
腸チフス	病状により医師によって感染のおそれがないと認められるまで	持続する発熱 発疹(バラ疹) 腹痛 関節痛 頭痛 下痢 血便	経口 接触	1～2週間			
パラチフス		腸チフスと同じであるが、症状が軽い	経口	1～2週間			
流行性角結膜炎		涙 目やに 異物感 結膜の充血	接触	1～2週間	発病後2～3週間	水泳禁止・手洗い タオルを共用しない	6～10月
急性出血性結膜炎		充血 出血 眼痛	接触	24～36時間	発病後5～7日間	水泳禁止・手洗い タオルを共用しない	6～10月

## \* その他の感染症

下の一覧表にあげた病気は、基本的に出席停止ではありませんが、医師の指示に従い、出席停止にする場合もあります。適切な治療を受けてください。

病名	登校基準	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	予防方法	好発季節
溶連菌感染症	治療後24時間経て、全身状態がよければ登校可能	扁桃炎など上気道感染症、皮膚感染症など多彩な症状	飛沫	2～4日	治療開始後24時間	うがい・手洗い	1～5月・ 11～12月
ウイルス性肝炎	A型 発病初期を過ぎれば感染力は低下する B型 出席停止の必要はない	発熱 頭痛 嘔吐 腹痛 黄疸	経口 二次	2～6週間	発病後1～2ヶ月	手洗い 生ものはさける	1～4月
手足口病	発熱や口腔の水疱・潰瘍のある間は感染する、解熱して元気になれば登校可能	発熱、口腔・咽頭に痛みを伴う水疱・潰瘍、手足の末端や背部に発疹・水疱	飛沫	2～7日	発症～回復後2～4週間	手洗い おむつと保育者の手の消毒	夏
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発病に気がついたときは感染力は低い	頬の紅斑 手足伸側にレース状紅斑	飛沫	10～20日	発疹のでる1～2週間前の数日間		冬～春
ヘルパンギーナ	感染は発病後2～3日、解熱して元気なら登校可能	突然の発熱 咽頭の発疹・水疱・潰瘍	飛沫	2～7日	発病前日～数日間	手洗い・うがい	夏
マイコプラズマ感染症	急性期が終わり、症状が改善すれば登校可能	ひどいしつこい咳	飛沫	2～3週間	急性期	マスクをする	
流行性嘔吐下痢症	症状が回復し全身状態がよくなれば登校可能	突然の嘔吐・下痢 便が白くなることある	経口 飛沫	1～3日	症状がある間		冬

# おもな感染症一覧表

もしかかったら・・・  
学校をおやすみしてください



下の一覧表にあげた病気は学校において予防すべき感染症といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に届けて、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。これは学校保健安全法で定められた『出席停止』で、欠席あつかいにはなりません。

## 《第1種》

病名	出席停止期間
エボラ出血熱 南米出血熱	治癒するまで
クリミア・コンゴ出血熱 SARS(重症急性呼吸器症候群)	
ペスト 鳥インフルエンザ(H5N1型)	
マールブルグ病	
ラッサ熱	
急性灰白髄炎	
ジフテリア	

## 《第2種》 飛沫感染のため、学校において流行する可能性が高い感染症

病名	出席停止期間	主な症状	感染期間
インフルエンザ	解熱後2日を経過するまで	高度の発熱・頭痛・筋痛・全身倦怠感・咽頭痛等の呼吸器症状	発病後3程度までは感染性が強い
百日咳	特有の咳が消失するまで	のどの発赤・特有な痙咳	発病後28日
麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	高熱・コプリック斑・発疹	発病2日前～発疹出現後5日まで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹が消失するまで	耳下腺の腫脹・発熱	発病7日前～発病後9日間
風疹 (三日はしか)	発疹が消失するまで	バラ紅色の発疹・発熱・リンパ節の腫脹	発疹の出る7日前～後7日間
水痘 (みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	紅斑→丘疹→水疱→膿疱→痂皮の順に進行する発疹	発疹出現2日前～水疱痂皮化までの10日程度
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状消退後2日経過するまで	発熱・咽頭炎・結膜炎	発病後2～3週間
結核	医師によって感染の恐れがないと認められるまで	肺に病変を起こすことの多い全身性感染症	

## 《第3種》

病名	出席停止期間	主な症状	感染期間
腸管出血性大腸菌感染症		激しい腹痛・下痢・血便	多くは数日以内
流行性角結膜炎		涙・目やに・異物感・結膜の充血	発病後2～3週間
急性出血性結膜炎		眼痛・眼脂・充血・出血	発病後1週間
コレラ	病状により医師によって感染のおそれがないと認められるまで	水様性下痢・低体温・急速な脱水症状・皮膚の乾燥としわ	健康保菌者は長期にわたり便中に排菌する
細菌性赤痢		下痢 発熱 寒気 吐き気 嘔吐	発病後1週間前後
腸チフス		腹痛 発熱 関節痛 頭痛 下痢 血便	
パラチフス		発熱 徐脈 パラ疹	

## \*その他の感染症

下の一覧表にあげた病気は、基本的に出席停止ではありませんが、医師の指示に従い、出席停止にする場合もあります。適切な治療を受けてください。

病名	登校基準	主な症状	感染期間
溶連菌感染症	治療後24時間経て、全身状態がよければ登校可能	扁桃炎など上気道感染症、皮膚感染症など多彩な症状	治療開始後24時間
ウイルス性肝炎	A型肝炎: 発病初期を過ぎれば感染力は低下する B型肝炎: 出席停止の必要はない	発熱・頭痛・嘔吐・腹痛・黄疸	発病後1～2ヶ月
手足口病	発熱や口腔の水疱・潰瘍のある間は感染する、解熱して元気になれば登校可能	発熱、口腔・咽頭に痛みを伴う水疱・潰瘍、手・足の末端や背部に発疹・水疱	発症～回復後2～4週間
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発病に気がついたときは感染力はない	頬の紅斑 手足伸側にレース状紅斑	発疹のでる1～2週間前の数日間
ヘルパンギーナ	感染は発病後2～3日、解熱して元気なら登校可能	突然の発熱 咽頭の発疹・水疱・潰瘍	発病前日～数日間
マイコプラズマ感染症	急性期が終わり、症状が改善すれば登校可能	ひどいしつこい咳	急性期
流行性嘔吐下痢症	症状が回復し全身状態がよくなれば登校可能	突然の嘔吐・下痢 便が白くなることもある	症状がある間